

10 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録 （ 要 点 ）

日 時	令和5年10月27日（金）10時00分
場 所	庁舎第3別館2階 会議室
出席委員	教育長 小澤和樹、委員 山本泰正、委員 長井俊朗 委員 竹田美和、委員 野間真美
会議に出席した者の職・氏名	副教育長 秋山直人、教育政策局長 正岡靖彦 教育大綱推進課長 鳥生幸司、学校教育課長 井上洋、 生涯学習課長 畑紀輔、学校給食課長 阿部孝文、 教育大綱推進課長補佐 崎山憲一
傍聴人	一般1名
議 題	議案 議案第44号 今治市教育大綱推進実施計画の中間報告について 午前10時00分、開会を宣す 小澤教育長 日程番号1、9月定例教育委員会の会議録を承認してよいか問う 一各委員一 意見なし 小澤教育長 承認してよいか問う 一各委員一 承認する 小澤教育長 日程番号2、会議録の署名委員に、山本委員、長井委員を指名する。 小澤教育長 日程番号3、教育長報告を行う 小澤教育長 質疑はないか問う

—各委員—

質疑なし

小澤教育長

<議題審議>
「議案第44号 今治市教育大綱推進実施計画の中間報告について」説明を求める

鳥生教育大綱推進課長

—「議案第44号 今治市教育大綱推進実施計画の中間報告について」説明—

小澤教育長

質疑がないか問う

野間委員

8番のスクールソーシャルワーカー、ハートなんでも相談員ですが、コロナの影響等もあって、不登校の生徒が増えてきていると思いますが、令和5年度の相談件数は増えてきていますか。

井上学校教育課長

現場からは、大きく減ったり増えたりというような状態ではなく、同程度と聞いています。

野間委員

10年ほど前は、ハートなんでも相談員への相談方法がわかりにくかったと思います。子どもさんの不登校は、ある日突然起きて、保護者の方も悩まれると思うので、相談したい場合の連絡方法などを、常にわかるようにしていただいた方が良いと思います。

また、27番の学校の教育活動を支援するボランティア配置が増えているのは、学校にとっても良いことだと思います。この募集方法は、どのようにされているのでしょうか。

井上学校教育課長

毎年、子どもたちを通して募集要項を保護者の方に配布したり、ホームページにも載せたり、コミュニティスクールの会議でも呼びかけたりしています。広く一般の方にご協力いただいております。その人脈が増えていくことが多くあり、年度当初に登録が多い現状です。

小澤教育長

相談員の紹介やボランティア募集の案内等は年度初めに行っていますが、状況によっては、年度途中にもご案内をするところもあります。

不登校児童生徒等の状況につきましては、月1回程度、定期的に学校の生徒指導担当者、各学年主任、管理職で、配慮を要する子どもの情報を共有する機会を設けており、相談員への相談を勧めたほうが良いと思われる児童生徒に対しては、学校から家庭にも働きかけることもございます。配慮を要する子どもたちの保護者からは、

学校の敷居が高いとか、相談しづらいというような声も聞きますので、一番の窓口である教頭や学級担任が、寄り添う関係を作ることが必要ではないかと思っております。

竹田委員

8番の教育相談活動の実施には、保護者からの相談件数も含まれていますか。

井上学校教育課長

保護者や子どもに関することについて地域の方からの相談も受けていただいております、相談件数に含まれております。

竹田委員

中学校のサポートルームに、外部からNPO法人ぼちまるの出山先生などが来てくれているというのを聞きました。その支援員の方たちの雇用形態は、どのようになっているのでしょうか。また、このような支援員は、今後も継続されていくのでしょうか。

井上学校教育課長

全中学校、そして小学校2校にサポートルームまたチャレンジルームという部屋を設けて、子どもたちを支援しております。

支援員の皆さんの雇用形態は有償ボランティアで、実績値をもって謝金を支払いする形で、子どもたちを支援していただいております。校長、教頭また職員の人脈や知り合いの方で、教員免許とか関係なく、支援していただいている学校もあります。

今後も私たちのめざすところは、誰1人取り残すことのない教育ですので、今は中学校と小学校2校ですが、今後の目標ですけれども、小学校にも展開していければと考えております。

小澤教育長

基本、有償ということですが、昨年度でしたら、状況によって児童生徒の関係性のある、正光会病院の相談員の方とか、先ほど出ましたNPO法人の出山先生とか、保護者の方と関係があったOBの先生とか、子どもたちのことを優先して関係性が良くなると思われる方に入っていただき、サポートルームにおいて、また家庭訪問というような関わりをしていただいた事例も伺っております。そういった方は、もしかしたらボランティアで支援していただいている場合もあるかと思えます。

サポートルームの支援の状況につきましては、各学校からの定期的な報告で教育委員会も把握しておりますので、そのような中で確認していきたいと思えます。

長井委員

学習支援、ICT支援を含めてお尋ねしたいです。先日、文科省に対して財務省が教育業務支援は、あまり教員の時間短縮に繋がっ

ていないのではないかと突っ込みを入れていましたけれども、この問題は、そう単純でないところに難しさがあると思います。8月28日に提言がなされたように、本当に喫緊の課題で取り組んでいかないといけないと思います。10番は、希望する学校に対しての配置の充足率になっていると思いますが、希望する数値が本当に適正な数値なのか。学習支援、業務支援、それからICT支援に関しては、どういうふうな形で希望をとって選定しているのでしょうか。

また、支援員が実際に働き始めた時に、教員との人間関係性などの働きやすい環境が非常に大事になってきて、実際の運用時の管理職などの持っていく方も非常に大事になるとと思いますが、その辺り、お聞きできたらと思います。

秋山副教育長

確かに10番のKPIの考え方で言うと、各学校からのどういう希望があるか、それに対してどれだけ充足したかというのが基本的な考え方だと思います。

ここは財政課とかなり議論をしています。ぜひこの教育委員会の場で、しっかり頑張ってという応援のメッセージをいただいたらと思います。学校規模、クラス数、教員数をベースに、基準的な人員配置数を考え、さらに特別支援学級のクラス数などの各学校の状況を考慮して、できる限りの増員をめざして調整しているところですが、財政課との綱引きというところで、現時点でKPIの達成については、厳しい部分があるかと思っています。

ただその中で、教員との関係性というところで、17番の学習アシスタントの研修の機会を充実させており、今年度からの学習アシスタント全員の研修では、学校現場や教育委員会事務局がめざしている教員の負担軽減を踏まえた学習アシスタントの業務内容について、改めて原点から説明させていただく機会を持ちました。まだまだ大きな課題と私どもも思っております。

長井委員

教員のためを思って予算要求するところと、文部科学省対財務省、県でしたら財政課とか、なかなか相容れないところがあるとは思いますが、逆に言うと、相手方が主張する論というのは、逆にこちらが考える際の良い材料になる面はあると思います。今回の文部科学省に対する財務省の突っ込みというのは、「教員の世界だけじゃないでしょう」という突っ込みでした。何で教員だけということで押さえにかかっていたけれども、逆に論破できるだけの理論武装をして、教育界のためにやっていかなくちゃいけないというところを喝破できるように、お互いに頑張っていきたいと思っています。

山本委員

結論を言えば他の委員に同感です。

現在の問題は薄々共有できており、皆さんが一生懸命やっていた
だいてあるべき方向に進んでいるようにうかがえます。

各委員がそれぞれの立場で懸念や問題を指摘されていますが、教
育大綱の推進のためにK P Iを設定してP D C Aサイクルを回して
いくことの是非について、数値で表せない部分もあり、我々は教育
委員としてその背景を感じ取り知識を入れているから、理解はでき
ると思っているのですが、何件訪問した、何人来たという数値だけ
で済ますのではなく、その結果どういう問題があつてどれだけ足ら
ないとかという議論に発展しないと意味はなさないと思っていま
す。

例えば学校運営協議会を全校で導入した結果、実態がどういうふ
うに運営されて、どのような問題が起きて、どういう効果があつて、
今後どのようなところを改善しなければいけないとはならず数字だ
け並べて終わっている。専門家の方からそのことを指摘される。あ
る意味稚拙な段階で止まっているのなら、今の大問題を解決するの
は、なかなか難しいのではないかと感じています。

やはり、現場での実態がどうなっていて、どう改善しないといけ
ないのかということの方を、もっと深掘りして重きをおくべきでは
ないか。だから、現場の皆さんに近い方のご意見は非常に参考にな
るので、承りたいなというふうに思いました。

小澤教育長

内容や、指標の設定によっては、数値では表しきれないものもあ
りますし、たとえ9割達成していても、できていない残り1割に、
大変な重要な課題があるかもわかりません。そういったところ、こ
れからも真摯に受けとめて取り組んでまいりたいと思います。

小澤教育長

他に意見がないか問う

—各委員—

意見なし

小澤教育長

承認してよいか問う

—各委員—

承認する

小澤教育長

午前10時48分、閉会を宣す

以上、会議の次第を記し、その相違ないことを証するため署名する。

山本委員 山本 泰正

長井委員 長井 俊嗣